



ひばり

<http://www.meguro.ed.jp/meguro3j/>
mail meguro-3j@meguro.ed.jp

目黒区立第三中学校

学校だより NO. 4
(通巻 44)

平成 23 年 (2010)
6 月 1 日 (水)

感動！運動会『暑さに負けるな 三中魂！』

校長 飯野 博史

例年より十数日早く梅雨入り、おまけに台風 2 号まで接近、29 日（日）に予定していた運動会を 31 日（火）に延期して実施しました。昨年度同様平日の実施となりましたが、多くの保護者の皆様、地域の方々にお出でいただきました。皆様方のご協力により、大きな成果をあげて終えることができました。ありがとうございました。

私は開会式のあいさつで次のように生徒たちに期待しました。

「保護者の方や地域の方に見守られながら、仲間とともにこのように運動会が開催されることに感謝の気持ちをもつことが大切です。感謝の気持ちは全力で競技すること、一生懸命演技することで表してほしい。一生懸命取り組む姿は見ている人たちに感動や勇気を与えます。見てくださっている人たちに感動と勇気を与える運動会にしよう。」

生徒たちは見事に期待に応えてくれました。一生懸命歯を食いしばって最後まであきらめずに走り抜く姿、学級が声を掛け合いながら協力し合って競技する姿、F 組の生徒を助けながら一緒に競技する姿、工夫を凝らして応援する姿…正面から見ていて何度も胸が熱くなりました。感動と勇気をもらいました。

閉会式での運動会実行委員長の言葉が素晴らしかったので紹介します。

「今年の運動会は『暑さに負けるな 三中魂！～DASH×2 優勝 奪取～』というスローガンのもと開催されました。各学年、学級は練習から本気で取り組み、生徒全員の力を結集できた運動会だったと思います。みなさんの心を占めているものは何でしょうか。すべての競技で見られた熱戦は私たち生徒はもちろん、応援に駆けつけてくださった保護者の皆様にも大きな感動を与えることができたと思います。この運動会に向けた準備期間、そしてやり抜いた運動会本番の熱い気持ちをこれからの生活にいかしていくことが大切です。今年の運動会はこれで幕を閉じます。ときには優しく、ときには厳しく指導してくださった先生方や最後まで応援してくださった保護者の方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

みなさん、今日の感動をこれからの学校生活にいかしていきましょう。改めて緊張感をもって、目黒区立第三中学校の生徒として頑張っていきましょう。

この運動会で得た感動を明日からの生活につなげていきましょう。



◎生徒の活躍

- ・第4位 バスケットボール 女子の部 目黒区春季大会（4／29）

◎3学年・3年F組修学旅行の日程をお知らせします。

2泊3日 京都・奈良方面

- ・6月21日（火）目黒駅―品川（8:30発のぞみ9315）―京都（11:05着）＝京都市内班別タクシー行動＝宿舎『元奈古』（京都）
- ・6月22日（水）宿舎＝京都市内班別行動＝京都 ……近鉄奈良＝宿舎『江泉旅館』（奈良）
- ・6月23日（木）宿舎…東大寺・奈良公園班別行動＝法隆寺＝新大阪（14:20発のぞみ9362）―品川（16:49着・解散）―目黒駅（17:30頃）

《新学習指導要領全面实施に向けて②》

言語活動の充実（その1）

Q.「言語活動の充実が新学習指導要領の大きな目玉となっている」という話をよく聞きますが、なぜ言語活動が重視されるようになったのでしょうか。

A.まず、新学習指導要領の中で言語活動についてどのように記載されているか確認しておきたいと思います。

各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

【第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 2（1）】

つまり「思考力、判断力、表現力等の育成」を図るために「言語活動」を充実させるということになります。

OECD（経済協力開発機構）が実施した国際的な学力調査（PISA調査）等によると日本の若者たちは、択一式のいわゆる知識の量を見る問題では平均に達するものの、自分の考えを述べたり表現したりという記述式の問題となると無答率が極端に高くなるという傾向が指摘されています。このような調査を待つまでもなく、物事を深く論理的に考えることが苦手で、何となく周りの人にあわせるだけで自分の意見をもたない若者が増えていることは以前から指摘されているところでした。

新学習指導要領が告示される少し前、平成19年11月に『言語技術』が日本のサッカーを変える」（田嶋幸三著：光文社新書）という本が出版され話題となりました。言語技術とサッカーとどういう関係があるのか、出版当時はあまり理解されませんでした。田嶋氏はサッカーを「スピーディなゲームの最中に究極の判断を求められるチームスポーツであり、刻々と変化していく局面に対してその都度、自分の考えを明確にし、それを相手に伝えていく」論理的な思考が求められるスポーツとしています。ところが、日本の子どもたちの問題として「自分が考えていることを言葉に出して明快に表現するということが身についていない」とことと『論理』を求められると、ひとつの正解だけを探し求めようとする」ことをあげています。

（次号に続く）